



平出 隼仁 議員

若者の人口増対策は

**HPを利用し
施策公開に努める**

質問・・・近隣市町村で就業している若者に目標を絞って、富士見町がベッドタウンとして機能するよう対策を講じる考えは。

町長・・・近隣市町村においても富士見町同様、労働力ある若者を取り込みたい状況は変わらない。富士見町だけが勝ち組になるような施策を取り、奪い合いをする考えはない。

質問・・・他県からの移住が増えるよう、環境や利便の良さをアピールしたらどうか。高齢化率の高い地区に移住してもらい、地区存続や学校等の統廃合対策を講じる考えは。

町長・・・新築住宅補助金や空き家バンクで対応したいと考えている。

質問・・・それだけでは十分とは思わないが、新築住宅補助金等の施策をどのように周知しているか。
町長・・・町のHPで閲覧できるようにしている。

質問・・・現在のホームページは観光に対する宣伝色が強く、また俗に言われる「縦割り行政」という形で掲載されており、大変わかりにくい。折角の施策も伝わらなければ意味がない。

ホームページのメインに「富士見町に移住を考えている若者へ」というバナーを作り、施策や補助等の内容を一括して閲覧できるようにする。その閲覧した施策から現在の縦割りのページへリンクし、さらに詳細な内容が表示されるようサブページを作る必要があると考えるが。

町長・・・確かにそのとおり。施策は一方的に作っているものであり、相手に伝えることができて初めて効果が出る。早速、対策を考えたい。

口その他の質問

*太陽光発電事業について



佐久 祐司 議員

放射能汚染から給食の安全をどう守るか

安全性が確認された食材を使用していく

質問・・・町民が放射能汚染に対する正しい知識を持つべきではないか。

町長・・・国や報道機関が沢山の情報を流している。町独自の情報提供は難しい。

質問・・・子どもたちの給食の安全をどう守っていくか。

町長・・・現在、汚染されていないと確認された食材を使っている。福島産というだけで個別扱いをするのは復興の妨げになる。国の情報信じられないというのは概念論である。出荷時に検査をパスした食材を確認することが大事。

子ども課長・・・仕入れ食材は出先で国、県の検査が行なわれ、安

全性が確認された食材を仕入れている。規制値を超えたものは出荷制限があり、流通できない仕組みになっている。調理現場では食材を洗う回数を増やすなどの対応をしている。

常に情報や状況の変化を注視し、教育委員会、栄養士会、仕入れ業者と連携を図りながら引き続き安全安心な給食の提供に努める。保護者にも状況説明の通知を出した。今後も情報提供をしていく。

教育長・・・再度関係者と何ができるか検討したい。

質問・・・県外から入ってくる放射能汚染された食材、腐葉土などへの対策は。

産業課長・・・県の農政部が調査をしている。

質問・・・被災地のがれき、焼却灰の受け入れについて、どうなっているか。

建設課長・・・県を通じて受け入れができるか問い合わせが来ている。放射能汚染されたものは受け入れない条件で、受け入れる申し入れをしている。現在はまだ搬入されていない。

口その他の質問

*自然エネルギーの普及について